

## 自己評価報告書

平成23年 5月22日現在

機関番号：17101

研究種目：若手研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20683009

研究課題名（和文）コミュニティ・スクーリングの国際比較研究

研究課題名（英文）International Comparative Research into Community Schooling

研究代表者

林 崙 和彦（HAYASHIZAKI KAZUHIKO）

福岡教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：10410531

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育社会学

キーワード：多文化教育，コミュニティ教育学，連携・協働，インクルージョン，コミュニティ・スクール，拡張学校，貧困削減，コミュニティ開発

## 1. 研究計画の概要

本研究は、コミュニティ・スクールの世界的動向についての比較研究であり、その日本への紹介、コミュニティ・スクールについての評価調査や諸研究を導入することを目的としている。研究の方法・計画としては以下の3つ。

(1) イングランドの拡張学校・拡張サービスを中心に、スコットランド、米国、東欧、韓国といった、学校と連携したコミュニティ・サービスが発展している国や地域を訪れて、資料の収集および質的調査をおこなう。

(2) 英語圏におけるコミュニティ・スクールについての諸研究の動向や評価調査の手法について収集・蓄積する。

(3) 世界的な動向に近いとおもわれる貧困削減や移民統合にかかわる日本国内のコミュニティ・スクールの実態をあきらかにする。

## 2. 研究の進捗状況

ここまでの3年間では海外については計5カ国で6回の訪問調査をおこなった。まずイングランドとスコットランドでのケーススタディをおこなった。このケーススタディについては、イングランドではひとつの中等学校、スコットランドではひとつの統合コミュニティ・スクールに、それぞれ5日間滞在してインテンスィブなインタビューおよびコミュニティ・サービスの活動の参与観察をおこなった。さらにスタッフや活動に参加するひとびとへのインタビューをおこなった。

また、チェコ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、韓国、スコットランド（上記と別地域）を訪れ、短期間でエクステンシブな聞き取り調査をおこなった。これらの地域についてはそれ

ぞれ約3日間ほどの滞在で、行政関係者、NGOスタッフ、学校関係者へとひろく聞き取りをおこない、また、それぞれ3校ほどの学校を半日訪問した。ただし韓国については釜山の1校を訪問しただけにとどまる。韓国のコミュニティ・スクールは欧米の手法と似ており、貧困削減やコミュニティ開発に優れていることがわかっている。

こうした訪問調査にくわえて、キー・インフォーマントからの情報、ローカルな資料での事実確認などによって各国・各地域の実態を明らかにしてきた。

資料の収集については訪問国においていくつかの調査論文、著作、政策評価報告書、ローカルな資料などを入手しているが、まだ完了ではない。とくに米国での文献はもっとも蓄積があり追跡をつづけている。

国内での調査では福岡県田川市、静岡県浜松市の2つの校区を拠点として年間3-4回の訪問調査をおこなってきた。こちらは教員や関係者への聞き取り、行事や通常の学校運営日の観察などをおこなっている。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

予定通り順調に1年に1カ国以上の訪問が実現できており、調査の充実度や成果もほぼ予定どおりである。ただ、昨年度は海外にむけては短い調査期間しか確保できず、国内の動向を明らかにすることに力をいれざるをえなかった。また応募段階で計画になかった韓国への調査だが、通訳の確保に苦慮し、まだ十分なデータが獲得できていない。

## 4. 今後の研究の推進方策

最終年度は、もっともコミュニティ・スクールの運動が活発である米国の長期的な訪問調査を予定している。また、韓国、英国への追跡調査も日程の都合および（朝鮮語）通訳のめどがつけばおこないたい。とくに韓国のコミュニティ・スクールは着目に値するのでぜひ実現したい。さらに、研究成果をまとめて出版することを目指している。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

ハヤシザキカズヒコ/レイチェル・ウィンター、2009、「イングランド公立学校における拡張サービスの運営と戦略」『部落解放研究 No.186』部落解放・人権研究所、47-62頁、査読なし

ハヤシザキカズヒコ/レイチェル・ウィンター、2009、「スコットランドにおけるコミュニティスクール」『部落解放研究 No.185』部落解放・人権研究所、59-74頁、査読なし

ハヤシザキカズヒコ、ほか3名、2009、「ニューカマーの子どもに関わる<連携・協働>の地域比較研究 東海地域の外国人集住都市におけるマルチ・エージェンシー・ワークの事例研究より」『教育実践研究 第17号』福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター、119-127頁、査読なし

ハヤシザキカズヒコ/レイチェル・ウィンター、2008、「合衆国におけるコミュニティ・スクーリングの現状(3)」『部落解放研究 No.183』部落解放・人権研究所、78-86頁、査読なし

ハヤシザキカズヒコ/レイチェル・ウィンター、2008、「合衆国におけるコミュニティ・スクーリングの現状(2)」『部落解放研究 No.183』部落解放・人権研究所、74-81頁、査読なし

ハヤシザキカズヒコ/レイチェル・ウィンター、2008、「合衆国におけるコミュニティ・スクーリングの現状(1)」『部落解放研究 No.182』部落解放・人権研究所、73-80頁、査読なし

〔学会発表〕（計1件）

ハヤシザキカズヒコ・前馬優策、2010年6月5日、「スコットランドにおける学力向上策」日本経営学会第50回大会、静岡大学、口頭発表

〔その他〕（計2件）

ハヤシザキカズヒコ、2009、「学校における効果的な人権教育の推進のために コミュニティスクールの可能性」『教育福岡

第598号』、福岡県教育委員会、2-3頁。

Kazuhiko Hayashizaki, 2008, "Community Schools and Educational Policy in Japan" presentation at Research Tea Program in Research Centre For Learning and Teaching, Newcastle University.